

「農村RMO」の事業推進にあたって

「ビジョン策定」

「農村RMO」（伴走支援）事業の初年度に行う重要な作業が、「ビジョン策定」です。「ビジョン策定」ができることで、事業終了（卒業）後も自走し続けられるよう、2年度3年度の事業（「農用地保全」「地域愛原活用」「生活支援」）を決める必要があります。

地域の「ビジョンの策定」は、その地域が将来どのような姿を目指すかを明確にするプロセスです。

1 現状分析と調査：

- ・地域の歴史、文化、経済、社会的状況を調査し、現状を把握します。
- ・組織や地域の強み、弱み、機会、脅威（SWOT分析）を明確にします。
- ・市場や競争状況、顧客のニーズや期待を理解します。

2 住民や関係者の意見収集：

- ・組織、地域住民、行政、企業、NPOなどのステークホルダーの意見や期待を収集します。
- ・アンケート、ワークショップ、フォーカスグループなどの方法を用いて、幅広い意見を集めます。
- ・幅広い視点を考慮し、ビジョンの策定に反映させます。

3 地域の価値観と使命の確認：

- ・組織や地域が大切にしている価値観や使命（ミッション）を確認し、ビジョンに反映させます。
- ・組織や地域の独自性やアイデンティティを明確にします。

4 将来像のビジョンを描く：

- ・組織や地域が「こうありたい」という将来の理想像を幅広く集めます。
- ・組織や地域が目指すべき将来像を具体的に描きます。
- ・持続可能性、経済発展、社会的包摂、環境保護など、さまざまな要素を考慮します。

5 ビジョンの言語化：

- ・組織や地域の将来像を簡潔かつ明確な言葉で表現します。
- ・住民や関係者が共感しやすい形でビジョンを伝えることが重要です。

- ・全てのステークホルダーに理解しやすい形で表現されているか確認します。
- 6 ビジョンの共有とフィードバック：
- ・組織内外にビジョンを伝え、共有します。
 - ・組織及び地域全体がビジョンに共感し、それに向かって行動できるようにします。
 - ・策定したビジョンを組織及び地域全体で共有し、フィードバックを受け取ります。
 - ・住民の意見を反映し、ビジョンを調整・修正することも考慮します。
- 7 実行計画の策定：
- ・ビジョンを達成するための戦略や目標、具体的なアクションプランを策定します。
 - ・進捗を評価するための指標や目標を設定します。
 - ・資源の配分、時間軸、責任者などを明確にします。
- 8 進捗のモニタリングと評価：
- ・ビジョン達成に向けた進捗状況を定期的に評価します。
 - ・設定した目標に対する達成度を測定し、必要に応じて計画を修正します。
- 9 ビジョンの見直しと更新：
- ・社会や経済、技術の変化、環境の変化や組織の成長に応じて、ビジョンを定期的に見直し、必要に応じて更新します。

ビジョンとは？

ビジョンとは、組織や地域、構成員が将来に向けて目指す理想的な状態や目標を描いたものです。

① 未来志向：

ビジョンは現在の状況ではなく、将来の理想的な姿を描いたものです。それは組織や地域が成し遂げたいと願う目標や夢を具体化したものです。

② インスピレーションナル：

ビジョンは関係者に対してインスピレーションを与えるものであり、モチベーションを高める役割を持ちます。人々が共感し、目指したいと思える内容であることが重要です。

③ 簡潔で明確：

ビジョンは短くてわかりやすい言葉で表現されることが理想的です。これにより、関係者全員が容易に理解し、共有することができます。

④ 挑戦的であり現実的：

全く現実的でないものではなく、努力すれば実現可能な範囲内に設定されます。

⑤ 価値観や使命と連携：

ビジョンは、組織や地域の価値観や使命（ミッション）と一貫している必要があります。これにより、ビジョンはその組織や地域が何を大切に、何を達成したいと考えているかを反映します。

具体的な例

地域のビジョン：「自然と調和した持続可能な地域づくりを実現し、すべての住民が安心して暮らせる地域を目指す。」